

就職活動がもたらすキャリア意識への影響 The influence of the job-hunting activities on the consciousness to the career

1K09A072-1

指導教員 主査 中村千秋 先生

鎌倉 翔

副査 武藤泰明 先生

【緒言】

近年では、先進国や新興国を巻き込んだ世界中で経済的諸問題が起きている。我が国における経済状況もまた、いっそう厳しいものとなり、先行きが不透明である。このような社会状況下で若者を中心とした雇用問題が取りざたされている。若年層を中心に非正規雇用者の割合が増え、日本型雇用制度の崩壊が顕著である。現在では従来の雇用制度の崩壊もあり、企業頼みのキャリア構築ではなく、個人自らがキャリア構築していく必要に迫られているのである。このキャリアを構築することをキャリアデザインと一般的に呼び、金井壽宏氏は節目に行くべきだと述べている。この節目の代表格として就職であり、就職とは学生から社会人へと場所を移すものだからである。その就職を行う上で必要不可欠なのが就職活動である。

本研究では 2013 年卒業予定で就職活動を終え、内定を得た大学 4 年生と就職活動を控えた 2014 年卒業予定の大学 3 年生を対象にアンケートを実施し、4 年生と 3 年生それぞれが自らのキャリアデザインやキャリアビジョンを持つことへの意識の違いがあることを明らかにし、その違いが就職活動であるという仮説を証明する。

【方法】

アンケートを実施した。調査実施対象者は、2013 年度卒業予定の就職活動を終え、内定を得た大学 4 年生の（21 歳～23 歳の男性 32 名、女性 19 名の合計 51 名）と 2014 年度卒業予定の就職活動を控えている大学 3 年生（20 歳～22 歳の男性 28 名、女性 22 名の合計 50 名）とした。アンケートは 3 つのカテゴリーに分類し、20 の質問項目から構成した。

【結果】

自己分析・自己認識のカテゴリーの質問項目では就職活動を経た大学 4 年生が 3 年生で有意な差がみられた。特に、大切にしている考えや信念があるかどうかを尋ねた項目では、大学 4 年生の約 90%が「そう思う」・「ややそう思う」と回答した。それに比べて 3 年生では約 50%という結果を示した。一方で、キャリアビジョンのカテゴリーの中の子ども頃から夢や目標を持ち続けているかどうかを尋ねた項目では、4 年生と 3 年生で両者の考え方には有意な違いが示されなかった。同様に、3 年後、5 年後、10 年後と将来の自分自身に対する明確なイメージを描いているかどうかを尋ねた項目でも両者には有意な違いが示されなかった。働くことについてのカテゴリーすべての質問項目では、大学 4 年生が 3 年生に比べて「そう思う」・「ややそう思う」と回答した。

【考察】

自己分析・自己認識とキャリアビジョンのカテゴリーで4年生と3年生に違いがみられた。就職活動は、節目の就職に至るために自分自身と何度も向き合い、長所や短所を把握することから大切にしている信念や考え、何が得意で不得意なのか、また、どんなことに興味があり、何をやりたいのかといったことなどの将来のなりたい姿などを模索する。つまり、就職活動という名の下でキャリアデザインを行っているともいえる。従って、就職活動を経た4年生の方が3年生に比べて、自己のキャリアへの意識が高いのだ。

働くことについてのカテゴリーでは4年生と3年生に有意差がみられた。大学生活では働くことについて考える機会はありません。しかし、就職活動では企業説明会や多くの社員との交流などによって社会との接点を多く持つことができ、また、その間に並行して自己分析や企業研究といったことを行うので、「働くこと」を中心に考える機会が大学3年生に比べて増えるのである。

就職活動以前と以後において大きく結果に違いがみられることに懸念もされる。だが、就職活動の目的は内定を得ることではなく、就職という節目を含め、仕事生活を中心とした長い人生を見据えたキャリアデザインをすることではないかと考える。従って、就職活動中心に偏るのではなく、もっと大きな視点と視野をもって、大学1年生や2年生の頃から徐々に大学卒業を節目と捉え、キャリアデザインやキャリアビジョン作りを行っていく必要があるのではないかと考える。また、前述したように企業や業界、業種、あるいは実際に働いている社会人と接する機会が就職活動以前にはあまりないことも考えられる。従って、大学入学直後から、積極的に「社会」との接点をもつことができる機会を大学側から提供するべきであろう。

【まとめ】

就職活動を経たことで自己分析や企業の面接などのために自分自身と向き合い、キャリアデザインやキャリアビジョン作りを行う機会が必然的に4年生の方が多かった。また、企業説明会や業界、企業研究といったいわゆる「社会」と接する機会も4年生の方が多いのではないかと考える。従って、4年生と3年生の意識に違いがみられた要因としては就職活動を経たことであると考えられる。

本研究では、大学4年生と3年生においてキャリアデザインやキャリアビジョンへの意識の違いが明らかとなり、その要因として就職活動が大きく影響を及ぼしていることが示唆された。